

慶応三年五月二十六日より慶応三年六月一日まで

P8310687right

廿六日卯 晴雲

宅調、長蔵来り抱入家来の義頼聞る、松盛亭（三）稽古に来り、加賀半紙扇等賀贈せらる

廿七日辰 雨

出 殿、転役に付向に贈り物請甫に托し配達す、藤山稽古に来る

廿八日巳 晴雲

小笠原勢（一）方より借用の書類九冊抄録沃（よ）くしにより返さしめ且用人へ肴料遣す、出 殿、須崎

伯母はじめ来り、来月婚嫁の告別しら賀（其の外品）二把持来一杯を勸し旨

廿九日午 晴雲

二月の代り午祭執行、幟灯笼等を献じ赤飯（二斗）其の外を供す、匠工より鳥居を献納す

P8310687left

赤飯は墨邸稻荷社へも供し永持へも贈り遣す、（例にはあらず匠工其外家来一同手廻りへ）迄遣す

山本（鎗）来る不面、猪瀬（豊）来り強いて

面す、朝比奈（甲）より山縣精三郎身分の義に付頼越す、第十時蘭宿寺へ行きベルヂー

使節に引合同人宿寺の義也、蘭公使も列席、夫より仏館尋問通過ウエルニー来問に

答う午

餐を享せらる、川勝江（一）会同し、出 殿、兵庫土功、御手初の義促し建白書

三日限り便

に託し京地へ差立る、取越米限り状手形蘭認方等の義、善一郎へ托し御蔵手代へ引合に遣し且謝銀をも托し遣す、番町より隠居来り小品持来の旨

六月

朔日未 雨意

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。18